

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会 (第 25 期・第 3 回)  
議事要旨

1 日 時 2022 年 12 月 24 日 (土) 13:30~15:45

2 方 法 遠隔会議 (Zoom)

3 場 所 主催会場：国立環境研究所

4 出 席

委員：沖 大幹、三枝 信子、佐竹 健治、田近 英一、中村 卓司、西 弘嗣、  
春山 成子 (以上会員)、東 久美子、伊藤 香織、小口 高、齋藤 文紀、  
鈴木 康弘、中村 尚、西山 忠男、原田 尚美、村山 泰啓 (以上連携会員)、  
榎本 浩之、塩川 和夫、藤本 正樹 (以上特任連携会員)

欠 席：堀 利栄 (以上会員)

5 議題等

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 小委員会・関連分科会等からの報告
- (3) 国内外の動向に関する情報交換
- (4) その他

6 配布資料

資料 1 地球惑星科学国際連携分科会第 25 期第 2 回議事要旨

資料 2 地球惑星科学国際連携分科会委員名簿

資料 3 国際連携分科会関係活動報告

資料 4 第 25 期日本学術会議地球惑星科学委員会組織図

資料 5 小委員会・関連分科会等からの報告

COSPAR 小委員会

INQUA 小委員会

IMA 小委員会

SCOSTEP-STPP 小委員会

SCAR 小委員会

IASC 小委員会

IUGS 分科会

IUGG 分科会

IGU 分科会

ICA 小委員会  
SCOR 分科会  
FE・WCRP 合同分科会  
WDS 小委員会

資料 6 日本学術会議の在り方についての方針(12月6日)  
日本学術会議の在り方について (具体化検討案) (12月21日)  
声明(12月21日)

## 7 議事内容

### (1) 前回議事録の確認について

- 三枝委員長より、前回議事録が委員に確認済みであることが伝えられた。
- 三枝委員長から本分科会の概要、前回の委員会以降の活動、12月に開催された総会についての報告があった。総会に関しては、資料6を用いて(3)において議論が行われた。

### (2) 小委員会・関連分科会等からの活動報告について

- COSPAR 小委員会について、藤本委員から、COSPAR の総会が7月に開催され、本体の執行部役員に日本から1名が残ることが決まったことなどが報告された。
- INQUA 小委員会について、齋藤委員から、来年7月にローマで開催される INQUA 大会に向けて、役員、名誉会員、顕彰候補者の推薦が始まっており、それに対応した準備が行われていること、INQUA 小委員会では考古・人類・古気候に関するシンポジウムを今期中に企画中であり、提案母体としては国際連携分科会にお願いすることになることが報告された。
- IMA 小委員会について、西山委員から、IMA の大会が2022年にリヨンで開催され、2026年大会は南京で開催されること、次期役員の副会長に大谷栄治名誉教授(東北大学)が選出されたこと、IMAに関連する国内での活動などが報告された。
- SCOSTEP-STPP 小委員会について、塩川委員より、SCOSTEP では執行部に会長(塩川委員)と2名の理事の3名が理事会に参加していること、PRESTO プログラム(2020-2024)が進行中であり、今年2月にインドで、来年5月にイタリアで会議が開催されることなどが報告された。
- SCAR 小委員会について、中村(卓)委員より、SCAR 第10回科学総会が8月にインドにおいてオンラインで実施され、代表者会議が9月にインドでハイブリッド開催され、中村委員が現地参加したことなどが報告された。総

会では物理科学部会の会長に中村委員が新部会長として選出された。

- IASC 小委員会について、榎本委員より、IASC 評議会が3月にノルウェーで開催され、副議長として残る榎本委員を含めて新役員が選出されたこと、IPY が2032年からSCARと共同で実施されることなどが報告された。
- IUGS 分科会について、西委員より、一連のシンポジウムを行ったこと、チバニアンについては学術の動向11月号に特集を出版したことなどが報告された。またIGC2024年大会（韓国）については、日本海呼称問題や竹島への巡検に関して韓国側との協議の結果、サポートレターの取り下げ、日本における巡検の中止などの対応となった経緯が報告された。
- IUGG 分科会について、東委員より、次のIUGG 総会（2023年、ベルリン）に向けての準備、8つの小委員会に関連した活動、Early Career Scientist Award に日本から推薦した候補者の受賞が決まったことなどが報告された。
- IGU 分科会について、鈴木委員より、IGU のパリ大会が開催され、氷見山委員が引き続き前会長として執行部に残ること、日本から3名が顕彰されたこと、2023年に大阪で島嶼問題に関する国際会議が開催されることなどが報告された。
- ICA 小委員会について、伊藤委員より、小委員会の委員の辞任と新規就任があったこと、2年に1回の国際会議が来年8月にケープタウンで対面により開催されることなどが報告された。
- SCOR 分科会について、原田委員より、2022年の年次総会が10月に韓国で実施され、日本からの副議長が退任したこと、日本からフルメンバーで入っている国際ワーキンググループ2件が新規に採択されたこと、分科会の傘下の3つの小委員会の活動などが報告された。
- FE・WCRP 合同分科会について、三枝委員長より、12月26日に分科会を開催し、11の小委員会が対応している国際学術団体の動向の情報共有を行う予定であることなどが報告された。
- WDS 小委員会について、小委員会の副委員長の村山委員より、国内シンポジウムを3月に開催したこと、国際役員会の状況、関連する国際会議の状況などが報告された。
- 「その他」
  - IGC 釜山大会：特に日本海呼称、竹島問題について  
西委員より、日本からのIGC 釜山大会への支援の取り下げに至ったこれまでの経過の詳細な説明が行われた。鈴木委員から地名問題については、取り扱う専門的な組織・検討機関の設置などが必要であることなどの意見が出された。日本学術会議としても、国際対応について機能を強化する必要があるなどの意見があった。

(3) 国内外の動向に関する情報交換について

- 三枝委員長から、資料6の「日本学術会議の在り方についての方針(12月6日)」と「日本学術会議の在り方について(具体化検討案)(12月21日)」「声明(12月21日)」に関して説明があった。田近委員(地球惑星科学委員会委員長)から12月28日の行われる地球惑星科学委員会において、情報・認識の共有と議論が行う予定であることが報告された。委員からは、科学者のコミュニティーや国民に向けて日本学術会議の意義をさらに説明していく必要があるなどの意見が出された。

以上